

# 羽田高齢者学級五十周年

## 「羽田高齢者学級五十周年式典」

令和七年度三月二十四日、萩中集会所に於いて修業式を兼ねた「羽田高齢者学級五十周年式典」が開催されました。

来賓は、鈴木晶雅区長、飯田幸男区老連会長、羽田特別出張所副所長、鳴島攻前会長、羽田地域シニア会池田会長、各科の講師の方々、単会長、学級生の総勢百十四名の参加でした。

式典は、学級歌斉唱から始まり、来賓のご挨拶、修業式、そして祝賀と各科の発表がありました。詩吟は、親しみやすい歌の吟詠。太極拳はゆっくり滑らかな動作の中ですまじい集中力を感じさせていただきました。カラオケ体操は、認知症予防の歌に合わせての体操、書道とデジタルカメラは会場に作品展示がありました。

式典の最後にはカラオケがあり、十数名の美声が会場中を包み終宴となりました。

式典の出席者の全員に「羽田高齢者学級五十周年のあゆみ」を配布いたしました。このあゆみを読み、学級史を振り返っていただきたいと思います。

羽田高齢者学級は高齢者の学びと絆を育む場であり、皆さんが元々お持ちの才能を起こし、自己表現の楽しさを実感で

きる場でもあります。今後も羽田高齢者学級が羽田地域の高齢者の大切な場所として続いていくことを願っております。



学級歌斉唱様子



## 「羽田高齢者学級五十周年に想う」

創設は昭和五十一年、四教科で百名程度でのスタートでした。現在では、七教科（文系が五教科、体育系が二教科）で、萩中集会所とシニアステーション羽田、加えて萩中少年野球場を主な活動場所としています。

創設当時は、高齢化社会到来といわれ始めた時代であり、その対応策の一つとして生涯学習が推進され、各地に学びの場が創設。それに伴い、羽田にも老人学級が誕生いたしました。

義母は、自宅でも毎日のように書道をしており、孫が祖母の姿を見て感心していたことを思い出しました。

昭和六十二年には老人学級が羽田高齢者学級と名を変え、現在は書道科、詩吟科、カラオケ体操科、デジタルカメラ科、太極拳科、グランドゴルフ科、ゲートボール科の計七教科があります。文系科目は月二回の授業、体育系科目は毎週の練習を通して学んでいます。

## 「羽田高齢者学級各科の講師紹介」

羽田高齢者学級では、体育系の科目を除き、五名の講師の方々の指導の下日々活動しています。

書道科は松原初江先生。詩吟科は岳精流大田支部の中谷和彦先生。太極拳は楊名時八段錦の伊藤千代子先生。デジタルカメラ科は、アメリカで半年間写真の仕事に従事されたご経験のある榎本秀雄先生。カラオケ体操科は、プロの歌手として活躍されている清水綾子先生を講師として迎えております。

各講師の方々が素晴らしい経歴の持ち主であり、日々の指導を通して、多くのことを学んでおります。

(羽田シニア会 高齢者学級会計

赤松 洋子)



## ☆ 編集後記 ☆

暑い夏が終わり、秋の訪れが感じられるようになりました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。

地域情報紙はばたき20は、今回で120号目となります。平成五年一月に創刊号が発行され、今年は発行が始まって三十三年目になるようです。

ところで、地域情報紙はばたき20の『20』は何の数字かご存知ですか？答えは、羽田地区の町会数です。創刊号には20町会を羽に見立てたイラストが掲載されていました。今後も羽田地区の魅力や行事を発信していきますので、ぜひ楽しみにしてください。

(事務局 はばたき担当)



伊藤編集長作  
はばたき20  
町会イラスト



太極拳の披露

# はばたき

## 大田区立大田生活実習所

令和四年より施設長をさせていただいております、細川聡子と申します。この度は、大田区立大田生活実習所を紹介させていただける機会を頂戴し、大変有難く思っております。

まず初めに、大田区立大田生活実習所の変遷や事業所の概要について簡単に説明させていただきたいと思えます。設立は昭和五十四年四月で、東京都立大田生活実習所として定員二十一名で事業を開始しました。昭和五十五年四月に大田区立大田生活実習所となり、平成二十一年四月より大田区の委託を受け社会福祉法人睦月会が指定管理者として管理代行運営を開始しています。委託当初は定員四十五名でしたが、徐々に定員を増やし、現在は五十六名（うち東京都重症心身障害児（者）通所事業五名）の利用者が通っています。

大田区立大田生活実習所は生活介護事業所で、通われてる利用者は常に介護を必要とする状態にあり、主に日中に、日常生活の介護や支援、創作的活動・生産活動の機会の提供、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を受けています。また、中には医療的ケアの方もおり、看護師が支援にあたることもあります。

事業所は大田区萩中二丁目（中萩中学校のはす向かい）にあり、令和六年十一月に地上四階建ての新棟が完成して、「新」大田生活実習所として運営を開始しました。加えて、令和七年六月より泊りで利用者をお預かりする短期入所事業も開始し、保護者のレスパイト目的や保護者が急病時の利用者受け入れも可能になりました。

また、新棟に隣接する旧大田生活実習所は、大田区中央にある新井宿福祉園の改装に伴い、令和七年六月より新井宿福祉園の仮設として使用されています。この仮設の役目を終えた令和十一年度に、旧大田生活実習所を解体してもう一棟を新築予定です。

このような大田生活実習所の計画は、障害者通所施設設備の老朽化・長寿命化への対応と、今後も継続して施設での支援を必要とされる方がご利用いただけるように策定された『大田区立障害者福祉施設整備基本計画』の一つとして実施されています。

長期にわたる工事期間などにより近隣の皆様には多大なるご迷惑をお掛けする場面もあるかと存じますが、大田区は地域活動や障害福祉へより一層貢献して

いける施設を目指して、利用者・職員一同で元気に明るく頑張っております。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。  
（大田生活実習所 施設長 細川 聡子）



令和十一年 建設予定の新棟





## 「青宙橋渡り初め式」

三月二十九日、海老取川青宙橋渡り初め式に三世代揃ったと言う事で参加させて頂きました。

当日は悪天候で、ANAブルーベールにテントが張られ神事が行われました。その後、ANAのレストランで祝賀会が始まりました。

テープカット後の祝辞で三井不動産の方が構想から八年かかった事、地域の方との話し合いや重機の入らない河川に橋をかける苦労、大勢の協力で完成したことをお話しされておりました。橋の完成でANAの方や糍谷方面の方がモノレール整備場に直結し、都心へのアクセスが良くなります。完成した橋が末永く続くことを願い、三世代揃って橋を渡る予定でしたが、天候に恵まれず歩くことが叶わなかったため、天気の良い時に海老取川沿が公園と言う事もあり、散歩コースに橋を渡ることにします。

(前河原町会会長 石井 嘉明)



あおぞらばし  
青宙橋 開通

## 「羽田大鳥居寿会 お花見会」

羽田大鳥居寿会は発足から今年で三年目を迎えます。

昨年「お花見会」を開催しています。昨年は開催日を前もって決めてお花見を楽しみにしておりましたが、花冷えの影響で開花前の枝見会となっていました。今年は、昨年の教訓を活かして、開催日を事前に決めず、会場となる羽田一丁目児童公園の開花を確認してからのご周知となりました。開催日を四月五日と決め、直前の連絡となりましたが、大勢の会員の方々にお集まりいただきました。残念ながら桜は八分咲きでしたが、皆さんの笑顔は満開でした。

このようなイベントを皆さんで計画しながら、今後も楽しいシニア会（寿会）の運営ができればと思います。

羽田大鳥居町会の地域で概ね六十歳以上であれば入会可能です。多くの皆さまの入会をお待ちしております。特に男性の参加は大歓迎です。

(大鳥居町会 寿会)



お花見会



## 「久しぶりの町会イベント」

仲羽田さくらまつり

令和七年三月三十日、六間堀仲羽公園でさくらまつりを開催いたしました。

三月下旬に桜の開花宣言があった後、冷たい雨の日が続いていましたが、この日曜日は薄日の差す好天に恵まれました。新型コロナの影響から、町会として地域の皆様と触れ合えるイベントを長らく開催できておりませんでした。が、町会役員、子供会と青年会、地元企業やお店など、多くの方のご協力を賜り、今年は無事開催に至りました。射的・輪投げ・黒ひげ危機一髪などのゲームコーナーのほか、お囃子の体験も実施し、老若男女を問わずたくさんの方にご参加いただきました。今年度も様々なシーンで地域の皆様と触れ合う機会を設けられと思います。

(仲羽田町会

総務部副部長 夏目 通伸)



仲羽田さくらまつり

## 「熱中症学習講演会」

本羽田二丁目亀楽会は、六月十八日に本羽田プラムハイツで熱中症学習講演会を開催しました。地域包括センター羽田から紹介された、東京都のTO KYO「熱中症ゼロへ」のアクション事業の抽選が当たり、日本気象協会の気象予報士の清水茜音さんを講師に迎えました。

暑熱順化に有効な対策（運動と入浴）、天気図と暑さ指数、熱中症の正しい予防法、エアコンと扇風機の効率的な使い方などを学びました。清水さんのお話はとても分かりやすく、好評でした。

講演終了後の班長会議では、「電気代もやはり心配との声に、それよりも命を守らねば」と振り返りました。

(本羽田二丁目亀楽会)



熱中症学習講演会の様子



## 「バーベキュー 卒業生を送る会」

三月三十日、中村天祖神社にて卒業児や卒業生を含めた地域の子どもたち三十名とその親御さん達とバーベキューを行いました。天気も良く桜の木の下でお肉や焼きそばをいただき楽しい時を過ごしました。



バーベキュー

## 「交通安全教室」

四月二十六日に出雲中学校校庭にて、蒲田警察の交通安全教室が行われ、プロのスタントマンによる迫力のある車との接触事故のパフォーマンスがあり、私達がいつ被害者、加害者になる可能性や危険性があるのかなど、自転車の交通ルールの大切さを学びました。



## 「ガーデンパーティー」

四月二十七日、第七十四回大田区子どもガーデンパーティーが、萩中会場で行われ、『新しい出会いだ、みんな笑顔!』のスローガンのように、たくさん来場されました。

都南自治町会では、昨年と同様に「リズムジャンプ」のコーナーを出店いたしました。音楽に合わせリズムに乗り、ジャンプをして心身共にリフレッシュ。用意した参加賞のお菓子三百個もすべてなくなり、大盛況となりました

(本羽田三丁目都南自治町会)

## 交通安全教室



リズムジャンプ

羽田空港トリビア 55

## 「光の導きで航空の安全を守る航空灯火施設」

東京国際空港（羽田空港）では、夕方（薄暮）から滑走路をはじめとして、航空機の離着陸や地上走行を行う経路には、白、黄、赤、青、緑と異なる色や様々な光の強さの航空灯火が点灯しています。この航空灯火は、羽田空港に約16,500灯（26種類）が設置されています。また、エプロン照明灯（航空機の駐機場照明）、航空障害灯、街路灯の照明施設と合わせますと約20,000灯にもなります。

航空灯火施設は、航空機のタイヤ、ブラストなどによりタイヤゴム、塵埃の付着による光度低下を復元させるため、航空機の運航が少ない深夜の時間帯に航空灯火から光が出ているレンズ面の清掃を定期的に行うと共に、航空灯火を滑走路内から整備作業所（航空灯火をメンテナンスする場所）へ持ち帰り内部機器点検及び配光測定（必要な明るさを確認）を実施して、再度、滑走路内へ航空灯火を取り付けています。また、24時間体制で航空灯火の運用監視を行っています。

最後に、これからも航空灯火施設は、航空機の安全運航を支援いたします。

(東京空港事務所)

## こども食堂マップ

119号でこども食堂を紹介しましたが、その他にもたくさんの子供食堂があります。

こちらは、大田区社会福祉協議会が発行しているこども食堂マップです。



発行：大田区社会福祉協議会

※令和7年3月1日現在

